

## 渋民村の船田堰



【ナレーション】

むかしむかし、江戸時代の中頃、渋民村では田んぼが少なく、お米が少ししか採れませんでした。

農家の人たちはもちろん、中には商人の次男や三男で農業をして暮らしている者もいました。

当時は田んぼを自由に増やせなかったため、雑穀や豆、麦などを食べる苦しい生活をしていました。

しかしある日、お役人がやってきて、こう言いました。

【役人】

「皆のもの、よく聞け。南部のお殿様から田畑作勝手令が出された。

これからは、田を新しく作ってよいとお許しが出たぞ。」

## 渋民村の船田堰



【村人A】  
「こいつは驚いた！ 田んぼを作っているぞうだ！」

【村人B】  
「すごいぞ！ おいしい白い米が俺たちも食べると！」

【村人C】  
「やるべ、やるべ！」

【ナレーション】  
商人出身の男たち七人が名乗りをあげ、村のリーダーとして新しく田んぼを作ることを決意したのでした。

しかし、

【村人D】  
「いったい何をどうすればいいんだ？」

【村人E】  
「どこに田んぼを作る？」

【村人F】  
「こいゃよく考えないと、うまくいかないんじゃないか？」

【ナレーション】  
七人はそれから何度も集まり、話し合いました。

## 渋民村の船田堰



【村人A】  
「陣場がいいんじゃないか？あそこは広い原野だぞ。」

【村人B】  
「確かにいいが…水がないぞ。」

【村人C】  
「生出(おいで)川がいい！あれは源流が湧き水だし、一年中枯れんぞ。」

【村人D】  
「でも、水は低い方にしか流れん。陣場は生出川より高いぞ。」

【村人E】  
「そうだ、水路を作ろう！川上の高い所から陣場まで水路をみんなで掘るんだ！」

【村人F】  
「なるほど水路な。でも、ただ掘るだけでは失敗するぞ。」

【村人G】  
「まてよ。そう言えば、好摩(こうま)で水路を作ったそうぞ。確か、藩の技術者が手伝ったそうぞ。」

【村人A】  
「誰だぞいつは？」

## 渋民村の船田堰



【ナレーション】

七人は好摩の人に、八角伝之介(はっかくでんのすけ)という藩の技術者を紹介してもらいました。

【村人A】

「八角様、どうかお力を貸してください。」

【八角】

「わかりました。ただ、距離が長いので、難しい工事になると思いますよ。」

【村人B】

「村のみんなで、新しい田んぼのためにがんばります！」

【八角】

「そうですね。それではまず土地の高さを測いましょう。」

【ナレーション】

測量は夜に行われました。水で水平を保った道具を使い、提灯の光の位置を測るのです。

## 渋民村の船田堰



【ナレーション】  
水路の高さを決めたら、いよいよ工事の開始です。

【村人A】  
「白いおまんまのために、わっしょい、わっしょい！」

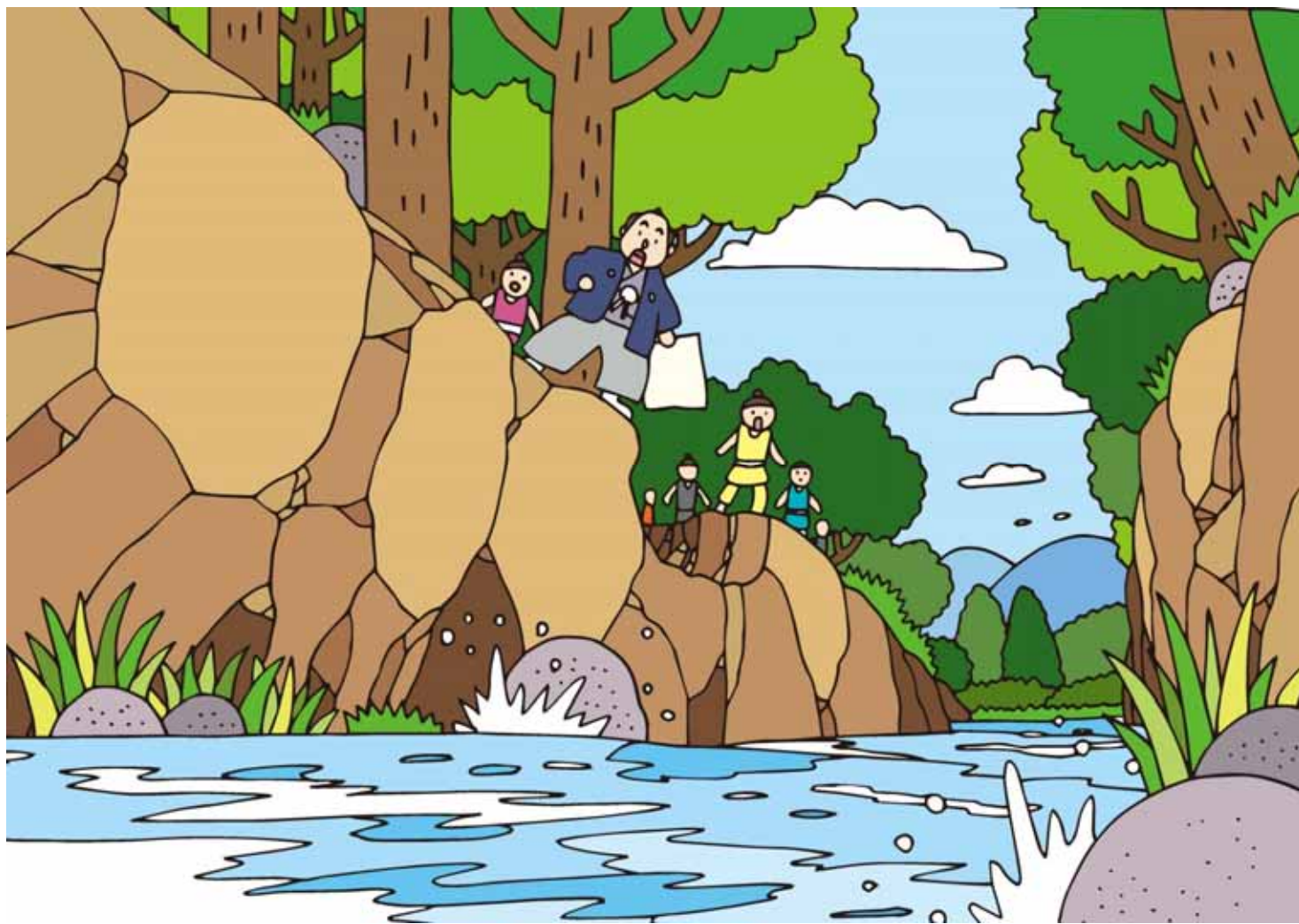
【村人B】  
「この水路が完成すれば、米がいっぱい作れるぞ！わっしょい、わっしょい！」

【八角】  
「これこれ、あまり掘りすぎるなよ。指示した高さにするんだ。水が流れなくなるからな。」

【ナレーション】  
八角は七人のリーダーに指示を出し、七人は村人に正確に掘るように伝え、一緒に作業に励みました。

工事は順調に進みました。ところが…

## 渋民村の船田堰



【村人A】  
「八角様、大変です。途中で別の川があります！」

【ナレーション】  
そこには笹森川が流れていたのです。

【八角】  
「おおなんと！こんな所に川が流れていたとは…」

【村人B】  
「予定では、この川を十字に横切る形になります…川と水路を合流させますか？」

【八角】  
「いやいかん。そうすれば水路の位置が低くなってしまう…陣場まで水が届かんぞ…」

【村人C】  
「そうか…どうしましょう？」

【ナレーション】  
八角はしばらく悩んでから

【八角】  
「そうだ、昔、同じような難しい工事を聞いたことがある。あれを試してみるか。」

## 渋民村の船田堰



【ナレーション】

八角は木の枠組みを作らせ、川の上に架けました。そして、内側を粘土で固めさせた「土樋(つちどい)」を作りました。

【八角】

「よし！これなら木のすき間から水が漏れたり、木が腐ったりしない。これで大丈夫だ。」

【村人A】

「さすが八角様だ！」

【村人B】

「よし、もう一息だ。がんばるべ、みんな！」

【ナレーション】

しかし、工事は農作業の合間にしかできず、専用の工具もなかったので、なかなか進みませんでした。

それでも、七人のリーダーをはじめ、村人みんなががんばって、ついに水路は開通したのです。

## 渋民村の船田堰



【村人A】

「やったあ、水が来た！」

【ナレーション】

陣場に開拓した田んぼに、水が行き渡りました。

【村人B】

「よおし、たくさん米を作るぞ！」

【村人C】

「やったあ、白い米が食えるぞ！」

【ナレーション】

ところがその年、お米は全然とれませんでした。

【八角】

「よその田んぼは実るのに、新しい田んぼは稲がちっとも育たない…なんでだ？」

【ナレーション】

八角は水路に手を入れて気づきました。

【八角】

「そうか、水が冷たいんだ。」

【ナレーション】

生出川の水は湧き水なので、稲を作るには冷たすぎるのでした。

【村人D】

「何年もかけて作ったのに…」

【村人E】

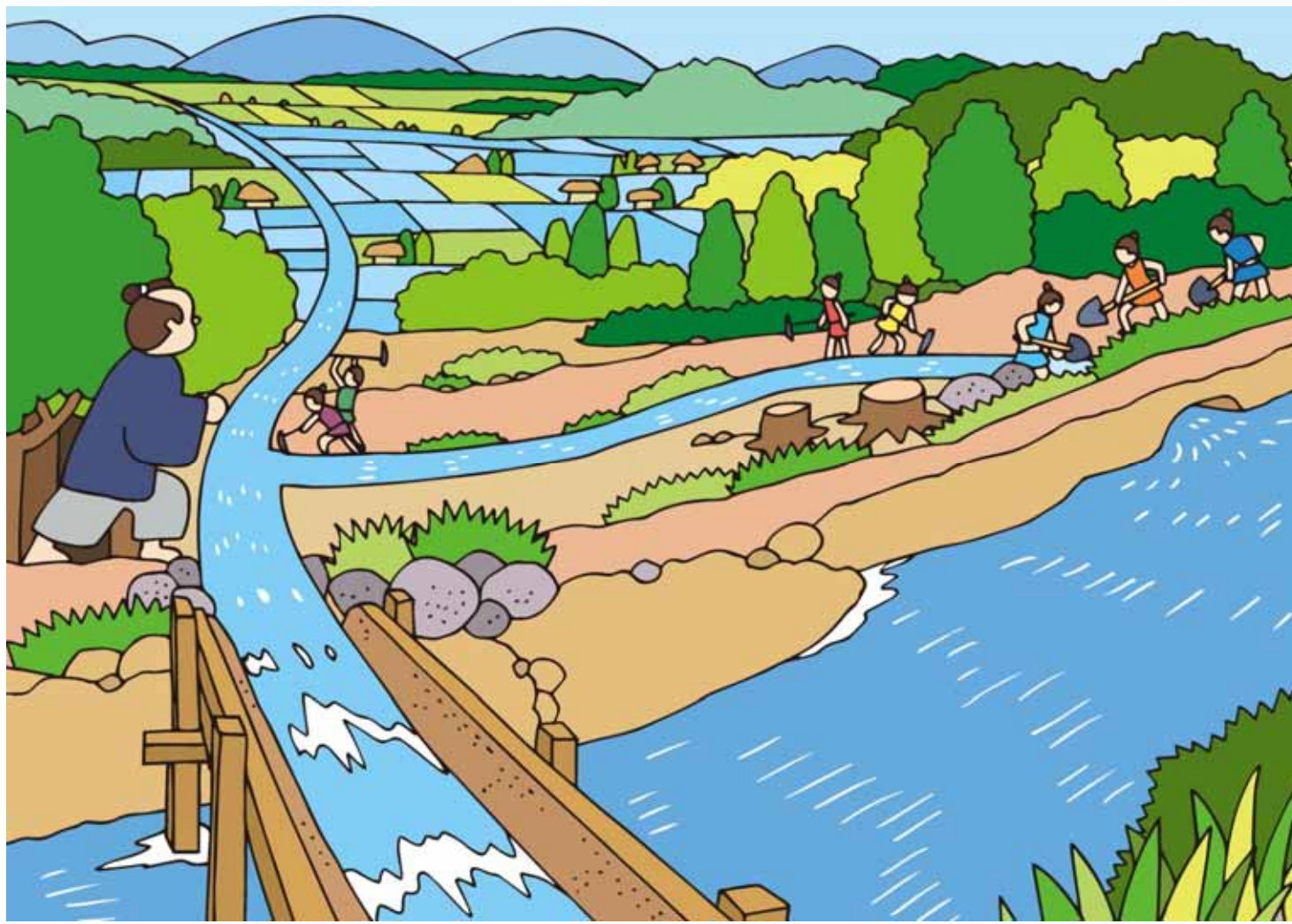
「むだ骨だったのか…」

【ナレーション】

皆、落ち込んでしまいました。



## 渋民村の船田堰



【ナレーション】

しかし、八角はあきらめずに考えました。

【八角】

「この水路は、源流から何も足さずに流しているから冷たいんだ。

ならば、他の川の水を加えれば、水の温度を上げられるんじゃないか？」

【村人A】

「それじゃあ、あの横断した笹森川がいい。他に川はないからな。」

【村人B】

「もう一本、水路を掘るのか？」

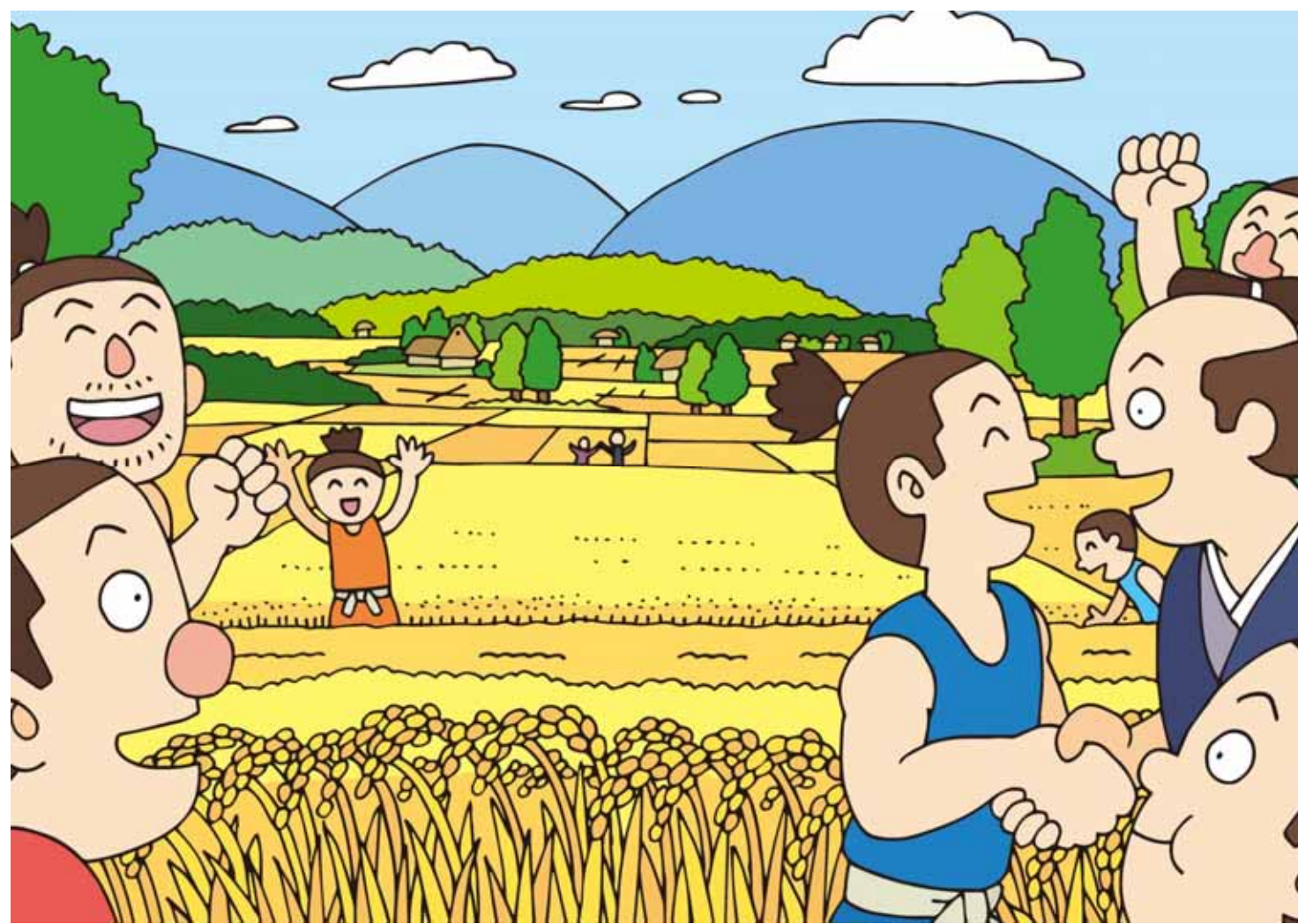
【村人C】

「んんー、でもそれしかない！  
もうひとがんばりするべ、みんな！」

【ナレーション】

こうして村人たちは、横断した笹森川の水を取り入れる水路をもう一本作り上げました。

## 渋民村の船田堰



【ナレーション】  
すると翌年からは、新しい田んぼも稲がよく育つようになりました。

【村人A】  
「やったああ、どうとう夢が叶った！  
たくさん米を作れるぞ！」

【村人B】  
「八角様、どうもありがとうございます。」

【八角】  
「いやいや、リーダーの七人をはじめ、皆さんの努力のたまものだ。わしもうれしいぞ！」

【ナレーション】  
八角も村人と共に、喜び笑いあいました。

## 渋民村の船田堰



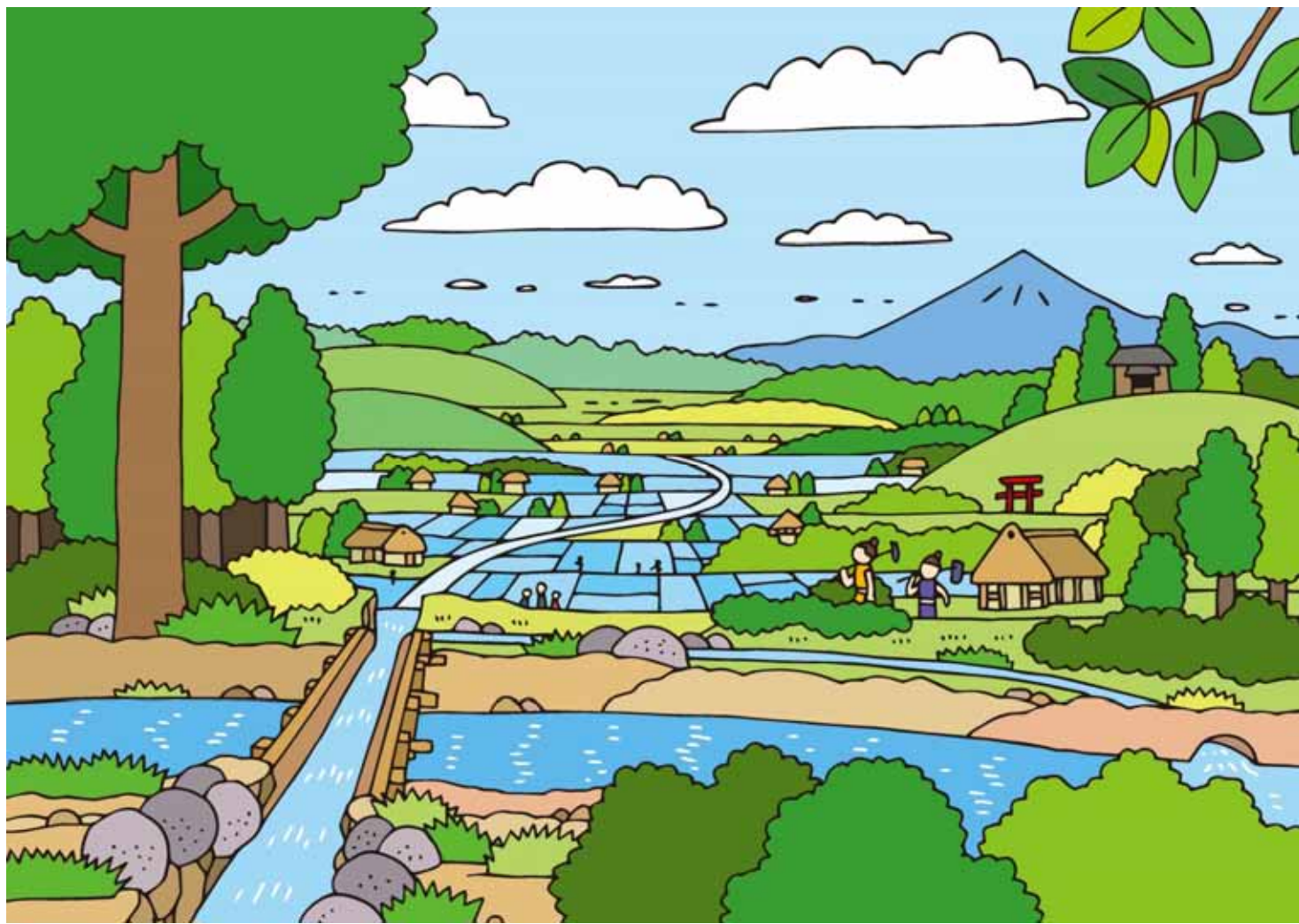
【ナレーション】

その後、八角は田んぼや水路工事の完成を記念して、山田地区の森の上に五穀の神を祀った卯子酉(うねとり)神社を建てました。

この神社は、岩手山と姫神山を結ぶ線上に建てられています。

姫神山から昇り岩手山に沈む太陽が、神社の真上を通る時期が、種をまく時、収穫の時の目安になりました。村人は、それを目印にして働きました。

## 渋民村の船田堰



【ナレーション】

八角伝之介と村人たちが作った水路は4.6キロもの長さになり、「船田堰(ふなだせき)」と名付けられました。

この水路のおかげで新しく作られた田んぼは、実に20ヘクタール(東京ドーム約5個分)と広大な面積になりました。

船田堰が完成した時には、土樋のそばに石碑も建てられました。そこにはリーダー七人の名前が刻まれ、今も豊富な水が流れる船田堰と地域の人々の暮らしを見守っています。

おしまい